



心臓血管外科部長 田中 正史

たなか・まさし●日本大学医学部卒業、医学博士。
心臓血管外科専門医、外科専門医

可能であれば、ステントグラフトを行う。広範囲の大動脈瘤に対し、開胸手術とステントグラフト治療を同時に実行する低侵襲ハイブリッド手術を実現した。

ためには、医師の手術経験はもちろんのこと、同時に血管内治療の技術も必要になる。外科医には血管内治療の技術が不足し、反対に循環器内科や放射線医には手術の経験が不足しているケースが多く、単独で実施できる施設は決して多くない。

同院においても、予ねてより多数の大動脈疾患の治療を行なうなかで、外科治療は心臓血管外科が担うといふように、それぞれ独立し

て行われていた時期もある。しかし大動脈センターが設立され、窓口を一元化してからは両部門の医師が集まり、治療方法の検討を重ね、常に患者目線で、個々の患者にとってどのような治療が最善かを考え、決して病院の都合で手術法に偏ることがないように細心の注意が払われている。さらに、大血管疾患に関わりが深い心臓疾患や脳疾患に対しても、循環器科や脳卒中科との連携で総合的集学的治療を行うことができる。

治療のみに拘らず 経過観察も選択肢に

同センターにおける心臓血管外科と血管外科の連携には、従来手術とステントグラフトの適切なバランス

を行なっている。

しかし大動脈センターが

設立され、窓口を一元化し

てからは両部門の医師が集

まり、治療方法の検討を重ね、

常に患者目線で、個々の患

者にとってどのような治療

が最善かを考え、決して病

院の都合で手術法に偏ること

がないように細心の注意

が払われている。さらに、

大血管疾患に関わりが深い

心臓疾患や脳疾患に対し

ても、循環器科や脳卒中科との連携で総合的集学的治療を行なうことができる。

をとれるという利点がある。

外科手術あるいはステント

グラフトのみに拘らないた

め、偏りのないプランを提

案することができる。

大動脈瘤は一度破裂する

場合でも、破裂前の状態

に比べて格段に手術が困難

なものとなる。同院は破裂

の緊急症例に対しても積極

的に行っている。ただし、

仮に大動脈瘤が発見され

た場合でも、破裂前の状態

に比べて格段に手術が困難

るものとなる。同院は破裂

の緊急症例に対しても積極

的